

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校日産愛知自動車大学校		平成5年3月23日		松川 健一		〒 455-0015 (住所) 愛知県名古屋市中区港栄1丁目7番12号 (電話) 052-653-4123		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 日産学園		昭和58年2月15日		神田 昌明		〒 329-0604 (住所) 栃木県河内郡上三川町上郷南西原2012 (電話) 0285-56-3585		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		自動車整備科		平成20(2008)年度	-	平成28(2016)年度	
学科の目的		自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		国家二級ガソリン自動車整備士、国家二級ジーゼル自動車整備士、損害保険、ガス溶接、アーク溶接、フォークリフト 中退率:4.7%(令和4年度)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,982 単位時間 単位	715 単位時間 単位	単位時間 単位	1,267 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
200 人	172 人		122 人		71 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		105 人					
	■就職希望者数(D)		105 人					
	■就職者数(E)		105 人					
	■地元就職者数(F)		66 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		63 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	なし							
(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和4年度卒業生)								
愛知日産自動車(株)、日産プリンス名古屋販売(株)、岐阜日産自動車(株)、三重日産自動車(株)、浜松日産自動車(株)、三河日産自動車(株)、東愛知日産自動車(株)、日産プリンス三重販売(株)、千葉日産自動車(株)、UDトラックス(株)、いすゞ自動車中部㈱、日産自動車(株)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
※有の場合、例えば以下について任意記載								
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/course/carbody.html							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,982 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		424 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		1,982 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		424 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B:単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		7 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		4 人			
	計				12 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、日産愛知自動車大学校内に設置し、教育課程編成委員会で編成した教育課程を基本に、カリキュラムを策定する。カリキュラムの策定については、教育課程編成委員会の意見を、学内で審議したのち、教育部長の許可を経て決定する。

委員会は、次の各号に掲げる観点から教育課程の編成に係る提案を行う。

- (1)就職先の業界における人材の専門性に関する動向
- (2)国又は地域の産業振興の方向性
- (3)新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能
- (4)その他、教育課程の編成に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
大森 一也	日産自動車株式会社 グローバル アフターセールス ネットワーク部	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
正治 博史	愛知県自動車車体整備協同組合 専務理事	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
西 和幸	愛知県自動車整備振興会 教育部 次長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
小出 学	日産東海テクノ株式会社 工場長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
山口 純丙	日産プリンス名古屋販売株式会社 課長代理	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
内山 晃	愛知日産自動車株式会社 課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
稲垣 俊夫	日産サービスセンタ株式会社 次長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
松川 健一	日産愛知自動車大学校 校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
鈴木 貴久	日産愛知自動車大学校 教育部 部長代理	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
武内 健二	日産愛知自動車大学校 教育部、学務部 課長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
中務 健之	日産愛知自動車大学校 教育部 課長代理	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
坂口 正憲	日産愛知自動車大学校 教育部 課長代理	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
上谷 晃一	日産愛知自動車大学校 教育部 統括	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—
今野 雄一	日産愛知自動車大学校 学務部 統括	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（7月、2月）

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月20日 13:30～16:30

第2回 令和6年2月 中旬(実施予定)

※その他 令和5年2月17日10:00～12:00「整備分野」、13:30～15:30「板金・塗装分野」を開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業代表の委員より①「不正車検問題」について法令遵守に関する教育をお願いしたい。②「自家用貨物自動車の点検と記録簿」の記入をしっかりと理解させてほしい。③日産自動車にて製造している車種の中には、キズが入っても自己復元する塗料(スクラッチシールド)があり、この理解を深めてほしい等の意見があった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実務で求められる知識や新技術などの企業等からの要望を踏まえて、より実務的なことも、実習・演習等にとりいれて、就職後に活かせるように企業等と連携していくことを基本方針とする

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

日産サービス資格に関して「日産自動車株式会社」と協定書を取りかわし、その協定書に従い、定めた技術能力要件を実習授業で身につける。学習成果の評価としては、学科及び実技試験を行い評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
車両1D	・法定12か月点検が自社で定められた基準時間内でできる ・ディスクローターの磨耗、面振れを測定し、良否判定ができる ・ブレーキパット、ライニングの交換ができる	日産自動車株式会社
エンジン2A	・エンジン補機ベルトの張力点検、交換ができる ・CONSULTで各システムの自己診断やデータモニターが確認できる	日産自動車株式会社
車両2A	・ESMを見て部品の取り付け位置がわかる ・ESMを見て部品の脱着が正確にできる ・エンジンやトランスアクスル(AT、CVT)等重量物の脱着を、整備要領書に則って安全に留意しながら作業ができる	日産自動車株式会社
車両2B	・サーキットテスターで、「電圧」「抵抗」「電流」の測定ができ、結果から正常・異常の判断ができる ・配線図から必要な回路を抜き出し、点検ができる	日産自動車株式会社
シャシ2C	・自分が実施した整備作業についてお客さまに説明ができる	日産自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「日産・自動車大学校 教員研修規定」及び「日産学園教職員教育体系」に基づき、計画的に教員研修を実施する。

教員の自己啓発、自己研鑽にとどまらず、企業と連携した専門分野における実務や指導力の習得・向上に繋がる研修を学校として継続的に支援・実施することを基本方針とする。

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「日産・自動車大学校 教員研修規定」及び「日産学園教職員教育体系」に基づき、計画的に教員研修を実施する。

教員の自己啓発、自己研鑽にとどまらず、企業と連携した専門分野における実務や指導力の習得・向上に繋がる研修を学校として継続的に支援・実施することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	電動パワートレーン講座 基礎+技術	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	2023年2月21日～24日(4日間)	対象:	教員
内容	電動車の基礎構造から整備技術までを実車を用いて学ぶ		
研修名:	NIM講話	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	2022年11月28日,12月6日	対象:	教員
内容	先進運転技術支援システムの開発実験内容、整備におけるエーミング作業の作業技術		
研修名:	タイヤ空気充填作業特別教育	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	2022年10月12日	対象:	教員
内容	交換後の自動車用タイヤに空気を充填する際の安全作業について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	JAMCA教職員夏季研修会	連携企業等:	全国自動車大学校・整備専門学校協会
期間:	2022年8月16日～19日	対象:	教員
内容	コーチング・コミュニケーション技法について		
研修名:	TMS研修	連携企業等:	東京海上日動メディカルサービス
期間:	2022年12月9日	対象:	教員
内容	学生への指導力向上を目的とする役割期待について		
研修名:	教員研修 准教員	連携企業等:	愛知県専修学校・各種学校連合会
期間:	2023年6月～8月	対象:	教員
内容	教育論・教師論、青年心理学、コミュニケーションとは		

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	車体上級講座	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2024年1月30日～2月2日(4日間)	対象: 教員
内容	車体骨格修正の技法フレーム修正機の使い方	
研修名:	NIM講話	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2023年11月(予定)	対象: 教員
内容	先進運転技術支援システムの開発実験内容、整備におけるエーミング作業の作業技術	
研修名:	電動パワートレイン基礎+技術	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2024年1月16日～1月19日(4日間)	対象: 教員
内容	電動車の基礎構造から整備技術までを実車を用いて学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	インストラクション研修	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2024年8月(予定)	対象: 教員
内容	インストラクターの役割とインストラクションスキル向上	
研修名:	JAMCA教職員夏季研修会	連携企業等: 全国自動車大学校・整備専門学校協会
期間:	2024年8月(予定)	対象: 教員
内容	コーチング・コミュニケーション技法について	
研修名:	教員研修 准教員	連携企業等: 愛知県専修学校・各種学校連合会
期間:	2024年6月～8月(予定)	対象: 教員
内容	教育論・教師論、青年心理学、コミュニケーションとは	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業等と定期的な会合を持ち、学校関係者評価、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像等
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	基準11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・整備士を希望する人材を増やしていくためには、幼い頃から整備体験をすることが、大切と先回ご意見をいただきました。レゴブロックやペーパークラフトを使った自動車の製作体験や学童保育の整備体験見学の受入れ等を実施するようにしています。
・社会貢献活動の一環としてクリーンパートナー活動を、今後も継続していきます。ツナギやユニフォームを着用して、学校の地域貢献を認知していただくようにしていきます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
長谷川 博久	名古屋市港区役所 区政部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	自治体代表
愛澤 正樹	東海日産自動車株式会社 取締役執行責任者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業代表
田中 明一	愛知県自動車整備振興会 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	団体代表
寺西 貴弘	愛知日産自動車株式会社 係長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/infomation.html>

公表時期: 令和5年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広く学校関係者に対して、教育活動等の情報提供により、説明責任を果たすと同時に、広く当校の特色をアピールする機会とする。また、教育活動の課題も示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。提供する情報は、「情報提供等への取り組みに関するガイドライン」(文科省)に準じて行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標
(2)各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3)教職員	教職員数、組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取組み状況など
(6)学生の生活支援	学生支援への取組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/infomation.html>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎自動車工学	自動車の概要（歴史・分類等）を理解する。 自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。	1 前	14.4		○			○		○		
2	○			エンジン構造 1 F	1. 4ストローク 1 サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。 2. エンジンの潤滑装置・冷却装置・燃料装置の構造、作動を理解する。	1 前	48		○			○		○		
3	○			シャシ構造 1 F	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。（クラッチ、マニュアルトランスミッション） 2. ステアリング機構タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。 3. アクスル、サスペンションを理解する。	1 前	48		○			○		○		
4	○			電装品構造 1 F	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. 充電装置の構造、作動を理解する。	1 前	48		○			○		○		
5	○			自動車工学 1 F	1. 自動車の材料を理解する。 2. オームの法則を理解する。 3. エンジン排気量の計算を理解する。 4. タイヤの回転速度から車速計算を理解する。	1 前	19.2		○			○		○		
6	○			整備機器取扱 1 F	自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1 前	19.2		○			○		○		
7	○			エンジン 1 A	1. エンジンの基本的な構造を学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1 前	52.8				○	○		○		
8	○			シャシ 1 A	1. クラッチの分解組立、点検、調整ができ、作動が機械できる。 2. クラッチのトラブルシューティングができる。 3. マニュアルトランスミッションの分解組付けを理解し、構造・機能を理解する。 4. プロペラシャフトの構造、機能、構成部品を理解する。 5. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1 前	52.8				○	○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			車両 1 A	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. ジャッキアップで作業する場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解するために行う。 4. 日常点検の必要性、作業項目、実施方法を学ぶ。 5. オイル交換の実施方法を学び理解する。	1 前	52.8				○	○		○		
10	○			エンジン 1 B	1. エンジンの基本的な構造の復習と共に D O H C を学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、シリンダゲージ等を使った測定を学ぶために行う。 4. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 5. 各種測定機器の取扱いを理解し、測定箇所に適した測定機器を使用する。	1 前	52.8				○	○		○		
11	○			シャシ 1 B	1. 不等速ジョイントと等速ジョイントの機能と構造を理解する。 2. ディファレンシャルの機能と構造を理解する。 3. LSD（差動制限型ディファレンシャル）の機能と構造を理解する。 4. ファイナルギアのバックラッシュ測定と歯当たり測定を理解する。 5. センターディファレンシャルの機能を理解する。	1 前	52.8				○	○		○		
12	○			車両 1 B	1. 配線図の読み方を学ぶ。 2. EMSの活用方法、操作を学ぶ。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. スタータモータの分解、組立、点検を学ぶ。	1 前	52.8				○	○		○		
13	○			オリエンテーション	1 年間の授業、行事などの概要を理解し、目標と時期を整理するために実施する。 目指す目標の目的を理解し、達成するためにはどのような過程でどのような努力が必要かを考える。	1 前	19.2		○			○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
14	○			エンジン構造 1 S	1. 4 ストローク 1 サイクルディーゼルエンジンの構造、作動を理解する。 2. 電子制御装置の仕組み、各センサの制御内容を理解する。 3. エンジンの潤滑装置・吸排気装置・燃料装置の構造、作動を理解する。	1 後	48		○			○		○		
15	○			シャシ構造 1 S	1. ホイールアライメントの構造・機能を理解する。 2. ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。 3. ホイール及びタイヤ構造・機能を理解する。 4. フレームの構造機能を理解する。 5. ステアリングの構造機能を理解する。	1 後	48		○			○		○		
16	○			電装品構造 1 S	1. 点火装置の構造、作動を理解する。 2. 灯火装置の構造、作動を理解する。 3. 冷暖房装置の構造、作動を理解する。 4. 発信回路・論理回路について理解する。	1 後	24		○			○		○		
17	○			自動車工学 1 S	1. 燃料、潤滑油及び機械要素を理解する。 2. エンジン系の計算を理解する。 3. シャシ系の計算理解する。 4. 重心、レッカー車の軸重計算を理解する。	1 後	38.4		○			○		○		
18	○			自動車法規 1 S	1. 自動車の道路運送車両の保安基準に関わる項目を理解する。 2. 国家 2 級試験法令問題を理解する。	1 後	24		○			○		○		
19	○			エンジン 1 C	1. エンジン構造を理解し、ネジや部品の良否判定ができる。 2. 液体ガスケットの施工ができる。 3. 水漏れの有無、水漏れ箇所の探究ができる。 4. 診断機（コンサルト）の基本的な取扱を理解する。 5. 整備要領書の内容を理解できる。	1 後	52.8					○	○		○	
20	○			シャシ 1 C	1. ドラムブレーキの分解、組み付け調整を理解する。シューの残量 ホイールシリンダー分解、組み付け含む。 2. ディスクブレーキの分解、組み付け調整を理解する。パット残量 キャリパーオーバーホール含む。 3. ディスクローター、ハブベアリングの測定又は、異常判定ができる。 4. ブレーキフルードの交換ができる。 5. 制動倍力装置の簡易点検ができる。	1 後	52.8					○	○		○	

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21	○			車両 1 C	1. オルタネータの構成部品、構造、作動を学ぶ。 2. オルタネータの分解、組付けができる。 3. ワイパー装置の構成部品、構造を理解する。 4. ワイパー装置の電気の流れを理解し、故障探究ができる。	1 後	52.8				○	○		○		
22	○			エンジン 1 D	1. 電子制御の基本的な仕組みを学ぶために行う。 2. テスタを使用して、各種センサの基本的な点検ができる。 3. コンサルタント 3 の取り扱いの基礎を学ぶ。 4. オルタネーターの 構成部品、構造、作動を学ぶ。 5. オルタネーターの分解、組み付けができる。	1 後	52.8				○	○		○		
23	○			シャシ 1 D	1. 2 輪特有の整備を身に付ける。 2. 2 輪に必要なメンテナンスを身に付ける。 3. 工作機器の正しい使用法を身に着ける。 4. 手作業による工作作業を身につける。	1 後	52.8				○	○		○		
24	○			車両 1 D	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 法定 1 年点検が販売会社で定められた基準時間内で出来ることを目的で行う。 3. ディスク・ブレーキ・パッドの交換ができることを目的で行う。 4. 点検機器を正確に扱うことができる。	1 後	52.8				○	○		○		○
25	○			オリエンテーション	2 年次の一年間の概要を理解する	2 前	3.2		○			○		○		
26	○			エンジン整備 2 F	1. 4 ストローク 1 サイクル・エンジンの構造、作動を理解する。 2. 電子制御式ガソリン・エンジンの構造、作動を理解する。 3. ジーゼル・エンジンの構造、作動を理解する。	2 前	48		○			○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
27	○			シャシ整備 2 F	1. 動力伝達装置のオートマティクトランスミッションの構造、作動を理解する。 2. 動力伝達装置のCVTの構造・作動を理解する。 3. アクスル及びサスペンション構造・機能を理解する。 4. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 5. ホイールアライメントの構造、機能を理解する。	2 前	48		○			○		○		
28	○			電装品整備 2 F	1. バッテリーの機能を理解する。 2. 始動装置、点火装置、エアコン、警報装置、充電装置、予熱装置を理解する。 3. 外部診断機を理解する。 4. 安全装置、付属装置を理解する。 5. 計器類、OBDを理解する。	2 前	48		○			○		○		
29	○			自動車工学 2 F	国家 2 級試験工学計算問題を理解する。	2 前	38.4		○			○		○		
30	○			エンジン 2 A	1. ガソリンエンジンの電子制御（噴射、スロットル、点火等）を理解する。 2. コンサルト（ダイアグノーシス）で自己診断、アクティブテスト等ができる。 3. コンサルトとサーキットテスタを使用して故障探求ができる。 4. エンジン補機類（スタータ、オルタネータ）が正しく安全に取り外しができる。	2 前	52.8				○	○		○		○
31	○			車両 2 A	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。	2 前	52.8				○	○		○		○
32	○			シャシ 2 A	1. トルクコンバータの構造、作動を理解する。 2. プラネタリギヤの作動、計算を理解する。 3. ギヤユニットの構造、作動、点検を理解する。 4. 油圧制御の概要、変速制御の仕組みを理解する。 5. CVTの仕組みを理解する。	2 前	52.8				○	○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
33	○			エンジン 2 B	1. エアコンサイクルを学ぶ。 2. エアコンガス回収、真空引き、チャージ方法を学ぶ。 3. オートエアコン自己診断を学ぶ。 4. ブロアーモータ回路を学ぶ。 5. コンサルトを使用してエアコンの故障探究ができる。	2 前	52.8				○	○		○		
34	○			シャシ 2 B	1. サスペンションの構造、機能を理解する。 2. フロントサスペンション（ストラット型）の分解組み付けができる。 3. リヤサスペンション（トーションビーム型）の分解組み付けができる。	2 前	52.8				○	○		○		○
35	○			車両 2 B	1. 電気の回路図を読み取ることができる。 2. 電気系統の不具合現象の確認からその回路を特定できる。 3. 故障診断器を使用し不具合箇所の絞り込みができる。 4. 測定結果から不具合部位の特定ができる。 5. 安全にドアレギュレータの脱着ができる。	2 前	52.8				○	○		○		○
36	○			日産資格試験	日産自動車社内資格試験	2 後	1.6			○			○		○	○
37	○			エンジン整備 2 S	1. エンジンの吸排気装置を理解する。 2. エンジンの点検、整備の考え方、方法を理解する。 3. ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、作動を理解する。 4. ジーゼルエンジンの電気装置、予熱装置の構造、作動を理解する。	2 後	24			○			○		○	
38	○			シャシ整備 2 S	1. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 2. フレーム及びボデー構造を理解する。 3. 潤滑及び潤滑剤について理解する。	2 後	24			○			○		○	
39	○			整備機器取扱 2 S	1. 自動車検査用機器の取り扱いを理解する。 2. 国家 2 級試験 検査機器に係るシャシ、工学、法規分野の問題を理解する。	2 後	19.2			○			○		○	

	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
40	○			自動車検査 2 S	1. 自動車の道路運送車両法に関わる項目を理解する。 2. 国家 2 級試験法令問題を理解する。	2 後	24		○			○		○		
41	○			自動車整備応用 2 S	国家試験模擬問題の実施及びその解説により、国家二級試験に出題される自動車整備知識の理解を深める。	2 後	38.4		○			○		○		
42	○			エンジン 2 C	1. 電動パワートレインの基礎知識を習得する。 2. 低圧電気について理解する。 3. EV安全作業を理解させる。 4. 応急手当を習得させる。 5. エーミングを理解する。	2 後	52.8				○	○		○		
43	○			シャシ 2 C	1. 制動倍力装置の構造、作動を理解する。 2. エア・ブレーキの構造、作動を理解する。 3. 整備結果説明を理解する。 4. タイヤチェンジャー、バルンサーの使用 方法を理解する。 5. 5. 電動パワーステアリングの構造、作 動を理解する。	2 後	52.8				○	○		○		○
44	○			車両 2 C	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 法定2年点検を理解し実施できる。 3. 正しく記録簿が記入できる。 4. 検査ラインが使用できるようになる。	2 後	52.8				○	○		○		
45	○			エンジン 2 D	1. 日産3級実技試験を実施する 2. エンジン分野では、故障探求を更に進める 3. エアコン冷凍サイクルの不具合現象の確認と故障探求をする 4. エンジンの主要なセンサとクチュエータの脱着をする 5. 現行車両を使って現時点でのESMの見方、コンサルトの使用方法を確認する。	2 後	52.8				○	○		○		○
46	○			シャシ 2 D	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. ボディーコートについて学ぶ 3. 車両内装品の脱着から部品の取扱い方法や注意点を学ぶ。 4. トーションバースプリングを調整することで車高を調整することを学ぶ。 5. リア・アクスルの脱着作業とブレーキ配管のエア抜き作業を学ぶ。	2 後	52.8				○	○		○		

																企業等との連携
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
47	○			車両 2 D	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 3. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。 4. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができる。 5. サーキットテストを用いて正確に測定ができるようになる。	2 後	52.8				○	○		○	○	
合計				47 科目 1982.4 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 選択、必須に関わらず全ての教科において未履修がなければ卒業を認める		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科、実習共にテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。		1 学期の授業期間	25 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。